

ごあいさつ

このたびは **スズキ カインドチェア** を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。お車の取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。この本をよくお読みいただいて、いつまでも安全・快適にご使用ください。

- この取扱説明書には、お車の各部の取扱い、装備の説明、万一のときの処置方法などについて説明してあります。
- 「**必読！安全運転のために**」は、とくに重要ですのでしっかりお読みください。
- この取扱説明書の中で使用されている記号は、次のようになっています。**▲ 警告**、**▲ 注意**、**∩m アドバイス**のところは、とくにしっかりお読みください。

▲ 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性が想定される内容を示しています。
▲ 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある内容、または物的損害の発生が予想される内容を示しています。
∩m アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、および知っておくと便利なことを示しています。

- イラストの中で使用されている**×**の記号は、図示されている行為の禁止を示しています。
- この取扱説明書には、点検整備の記録簿と保証書が含まれていますので、大切に保管してください。
- お車をお譲りになる場合、次のお客様のためにこの取扱説明書をお渡しください。
- 仕様などの変更により、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。

もくじ

必読！ 安全運転のために	運転の前に ……………2	使用上の注意 ……………7
	運転時の注意 ……………4	ラベル ……………11

取扱いの方法	各部の名称 ……………13	サブホイール ……………21
	スイッチの使いかた 15	操作ボックス ……………22
	メーターの見かた ……17	フットレストプレート ……23
	クラッチレバー ……19	日常の手入れ ……………24
	ブレーキレバー ……20	

運転のしかた	走行の前に ……………25	停止、駐車 ……………28
	発進、走行 ……………27	

充電のしかた	充電のしかた ……………29
---------------	----------------

点検・整備	日常点検 ……………34	タイヤ ……………38
	定期点検記録簿 ……35	ブレーキ ……………39
	バッテリー ……………37	

保管	保管 ……………40
-----------	------------

サービスデータ	諸元表 ……………41	車台番号 ……………43
	外観図 ……………42	

困ったときは	こんなときは ……………44	ご相談、ご意見は ……52
	さくいん ……………51	

保証書	車両受領書・保証書 ……………	巻末
------------	-----------------	----

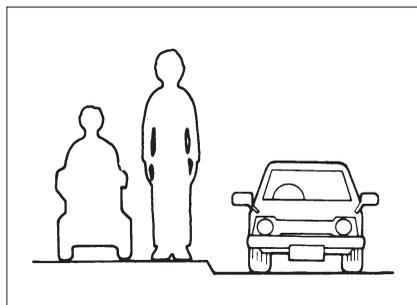
運転の前に

はじめは誰でも細心の注意をはらって運転しますが、慣れるにつれて注意を怠ってきます。注意事項を守り、安全な運転を心がけてください。

■カインドチェアは歩行者

カインドチェアは、道路交通法では「身体障害者用の車いす」で歩行者として扱われ、運転免許は必要ありません。歩行者として交通ルールやマナーを守ってください。

- 歩道や横断歩道を通り、歩道のないところは、右側通行してください。横断歩道では、一時停止で安全を確認してください。
- 歩道が途切れた所や、通行できずやむをえずに車道に出る時は車や段差に十分注意してください。
- 斜め横断はしないでください。
- 混雑している場所は避けるようにしてください。
- 飲酒・疲労運転はしないでください。



歩行者用標識を守ってください。



● 歩行者横断禁止

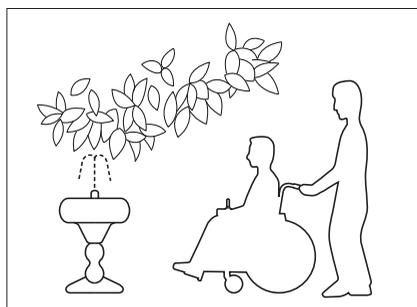
- 歩行者専用
- 自転車及び歩行者専用



■十分な練習を

運転に慣れるまでは、公園などの安全な広い場所で練習し、発進、停止、旋回、後進などの感覚を覚えてください。

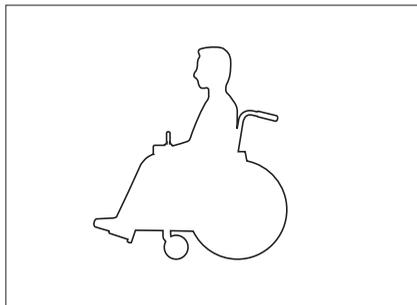
- はじめて道路に出るときは、介助者と一緒に、安全を確かめながら運転してください。



運転の前に

■カインドチェアは1人乗り

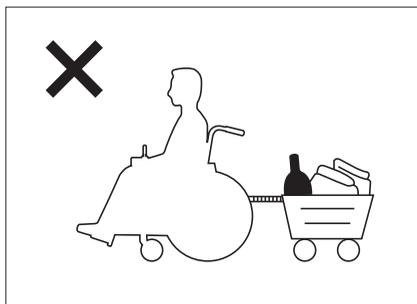
カインドチェアは1人乗りです。2人乗り（子供も含む）はしないでください。



■荷物の運搬、けん引はしない

荷物の運搬やけん引には使用しないでください。

- 使用者最大体重（積載物を含む）は75kgです。重量を超えて使用しないで下さい。



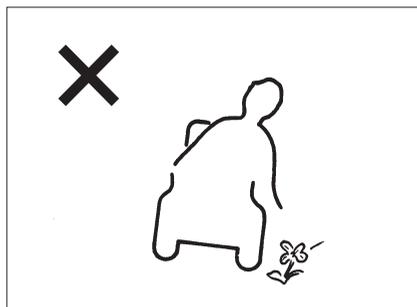
■日常点検を行ってください。

- 走行する前には、必ず日常点検を行ってください。
 - 33ページの「日常点検」参照
- 取扱説明書は、大切に保管してください。

運転時の注意

■運転は正しい姿勢で

- 車体から、身体をはみ出さないでください。バランスを崩し、転倒するおそれがあります。
- 衣服などが車輪に巻き込まれないよう注意してください。



■次の運転は避けて

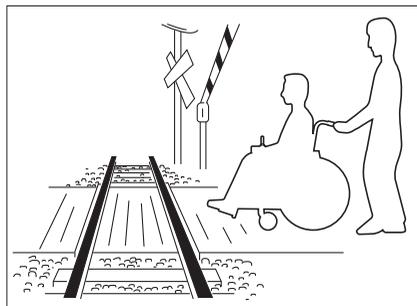
次のような場所や状況では、転倒や故障の原因となりますので、運転を避けてください。

・ 砂利道・ぬかるんだ道・雪道・凍結した道・凹凸の激しい道・水たまり・夜間・降雨・降雪・濃霧・強風時、など



次のような場所や状況では、接触や衝突のおそれがありますので運転を避けるか、介助者を同行させ、安全確認や脱輪予防をしてください。

・ 混雑している場所・交通量の多い道路・幅の広い道路の横断歩道・狭い道、防護柵のない側溝や路肩付近・踏切・電車などの乗り物に乗る時など

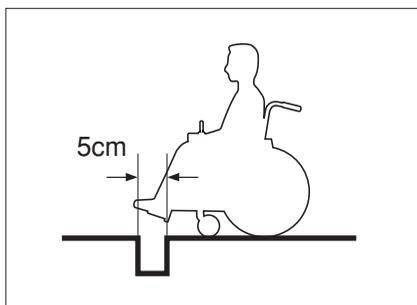
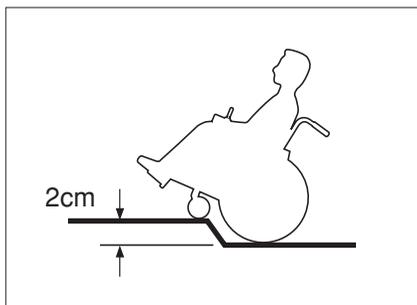
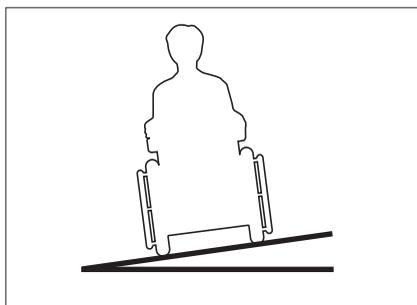
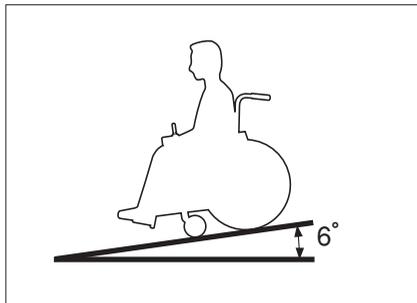


- 踏切では一時停止し、安全確認の後、線路の溝にはまらないよう、線路に対して直角に走行してください。
- 蛇行運転、急旋回は避けてください。

運転時の注意

■急な坂、大きな段差は避けて

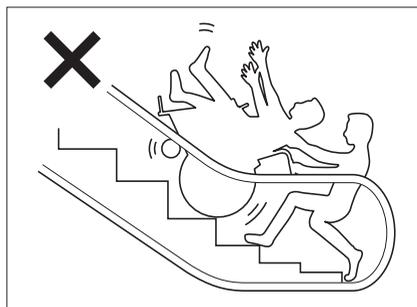
- 急な坂道の走行は避けてください。走行できる傾斜角度は約 6° が目安です。登坂限界（乗員75kgの場合約 10° ）に近づくと警告ブザー（継続音）が鳴り、バッテリー残量計が点滅します。ブザーが鳴ったら登坂を中止し、引き返してください。
- 傾斜地の連続した走行は避けてください。
- 坂道は、上り下りとも「前進・低速」で真っ直ぐ走行してください。
- 介助者が同行していても、坂道で停止させておくことはしないでください。
- 大きな段差の通過は避けてください。通過できる段差は約2cmが目安です。
- 段差の手前で一度停止し、段差に対して直角にゆっくりと走行してください。
- 大きな溝の通過は避けてください。通過できる溝幅は約5cmが目安です。
- 溝の手前で一度停止し、溝に対して直角にゆっくりと走行してください。



運転時の注意

■エスカレーターの使用禁止

乗車したままのエスカレーター（車いす用機能付のものは除く）の使用や階段の上り下りはやめてください。転倒するおそれがあります。



■携帯電話などの使用について

走行中は、携帯電話や無線通信機器などを使用しないでください。使用する時は、安全な場所に停止し、カインドチェアの電源スイッチを「切」にしてください。

また通信機器の電源をカインドチェアのバッテリーからとらないでください。



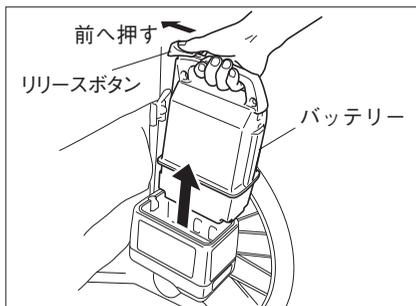
使用上の注意

車などに積んで運搬するときには、次の手順で行ってください。

1. 運搬中はバッテリーをはずしてください。

▲ 警告

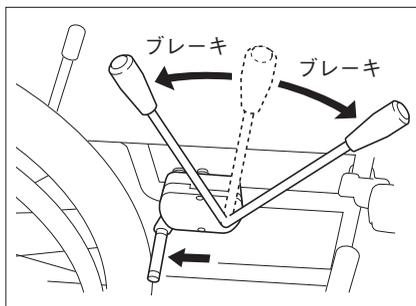
- 取り外したバッテリーが損傷したり、濡れないよう保管してください。
- 保管は車のトランクを避け、また炎天下では長時間車中に放置しないでください。



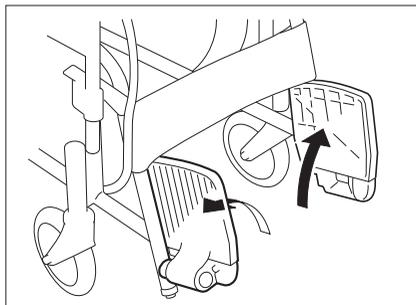
2. 車輪が回らないように、両輪のブレーキをかけてください。

👉 アドバイス

- ブレーキは、ブレーキレバーを前後どちらに倒してもかかります。



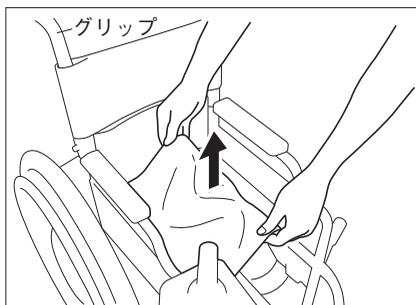
3. フットレストプレートを矢印方向に回転させて折り曲げます。



4. 座シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げて、次に左右グリップを持って押し縮めるようにたたんでください。

▲ 注意

- 配線などをはさまないように、車いすを折りたたんでください。

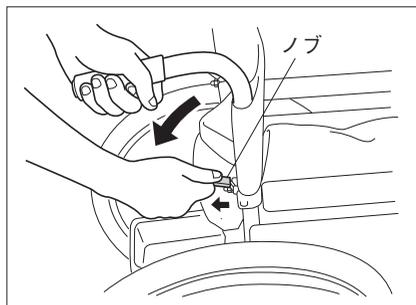


使用上の注意

5. グリップを片手で持ち、もう一方の手でノブを後方へ引きながら、グリップを後方下側へ倒してください。

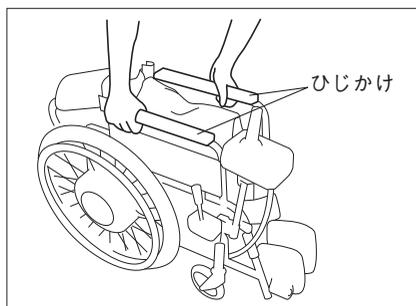
▲注意

- 背もたれを折りたたむ時に、ノブを強く押し付けないでください。ノブが割れることがあります。



6. 車いすのひじかけを両手で持って、静かに積み込んでください。

7. 運搬中は、強い衝撃が加わらないように車いすの下にクッションとなるようなものを敷いたり、動かないように固定してください。



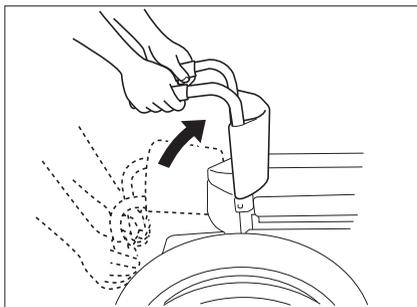
▲注意

- 車いすを持ち上げるときに、絶対にバッテリー、ケーブル、操作ボックス、操作レバー等の自走用操作部を持たないでください。機器を破損させる恐れがあります。
- 車いすを上下逆にしないでください。
- 運搬の際は必要に応じホルダレバーを操作し操作ボックスの高さを下げてください。
 - 22ページ操作ボックス「高さの調整」参照。
- 精密電子部品が使用されていますので、強いショックを与えないでください。

使用上の注意

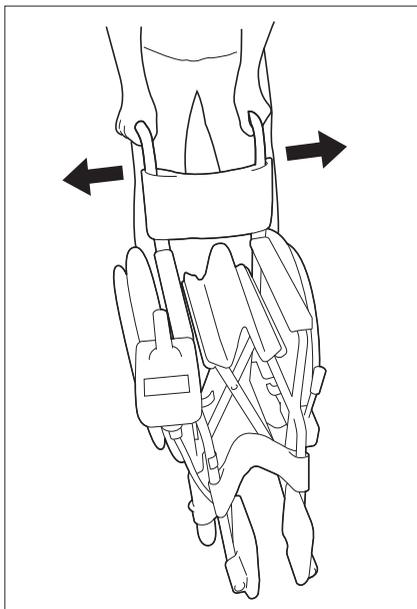
運搬のあと、車いすを使用するときは、次の手順で広げてください。

1. 車いすのグリップを矢印の方向へ持ち上げ、「カチッ」と音がして確実にロックされたことを確認してください。



2. グリップを持ち、左右に広げてください。

3. 片方のグリップを持ち、シート中央部を下に押し下げてください。



▲ 注意

- グリップはロックピンがカチッと音がして完全に立っててください。
- シートの横や下へ手や指を入れないでください。

使用上の注意

■修理、改造

修理や改造が必要な場合は、スズキ販売店にご相談ください。不適切な改造は、事故や故障の原因となります。

また改造した場合は保証が得られないことがあります。

■純正部品

部品交換時は、スズキ純正部品を使用してください。

■環境保護

廃車する場合や、使用済みバッテリーなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。

廃車する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

使用済みバッテリーは、リサイクルのためにスズキ販売店にお渡しください。

ラベル

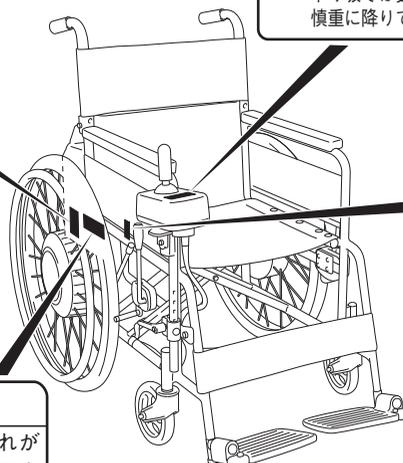
⚠ 注意

走行前には左右のクラッチレバーが「走行」になっているか確認して下さい。

⚠ 注意

下り坂では必ず「前進・遅」で慎重に降りてください。

走行
↑
↓
手押し



⚠ 警告



衝突・転倒の恐れがあります。坂道でクラッチレバーを「手押し」位置で使用しないでください。

ランプ
の見方

赤ランプ 点灯... 充電中
点滅... 充電待機中

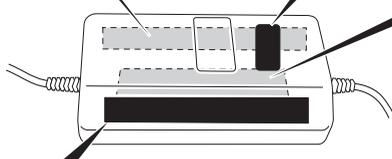
緑ランプ 点灯... リフレッシュ中
点滅... リフレッシュ待機中

赤・緑ランプ 消灯... 充電完了

※ 充電およびリフレッシュが待機中の場合はバッテリーが適正な温度になると自動的に充電およびリフレッシュを開始します。

リフレッシュ充電は
走行できる距離が短くなった場合など
月一回をめやすに行ってください。

〈充電器〉



※底面に貼付

充電時間のめやす

通常充電・・・普通に電池を充電します。

充電時間は、電池の状態や外気温などで異なりますが、電池がなくなるまで走行後、充電を開始して約4時間30分です。

・電池残量が多い時は充電時間が短くなります。

リフレッシュ充電・・・月一回または走行できる距離が著しく短くなった時に行なって下さい。

充電時間は、電池の状態や外気温などで異なりますが、最大で約18時間です。

・電池残量が多い時はリフレッシュ時間が長くなります。
・リフレッシュ充電は時間に余裕があるときに行なって下さい。

91-57570 A-TAMURA-S
入力：AC100V 50-60Hz 105VA
出力：DC28V 1.65A

製造番号

スズキ株式会社 日本製

⚠

警告

取り扱い説明書をよく読んで使用してください。

- ・感電の恐れがあります。濡れたプラグや濡れた手で充電しないでください。
- ・引火爆発の恐れがあります。充電中バッテリーに火気を近づけないでください。

⚠

注意

次のような使用は避けてください。

- ・専用バッテリー以外の充電
- ・雨や水のかかる所での充電
- ・乳幼児の手の届く所での充電
- ・分解、改造、落下衝撃

ラベル

⚠ 注意

- 取扱説明書をよく読んでから使用して下さい。
- 電動車いすは、歩行者扱いになります。歩行者としての交通ルールを守って走行して下さい。

⚠ 警告

- ・火の中や水の中に投下したり、加熱しないでください。破裂、発火の恐れがあります。
- ・電池の(＋・－)端子を針金等でショートさせないでください。発熱、破裂、発火の恐れがあります。

⚠ 注意

- ・強い衝撃を与えたり、分解、改造をしないでください。
- ・電池を本電動車椅子以外には、使用しないでください。
- ・専用充電器以外による充電はしないでください。
- ・ケースが破損した場合は、販売店で電池の検査を受けてください。



・使用済みの電池は、リサイクルのため販売店にお渡しください。

Ni-MH 24V 7000mAh

スズキ株式会社

走行



手押し

種類：LS 型式：AC22
 車台番号：AC22-100001
 型式認定番号：交 K01-7
スズキ株式会社 2001

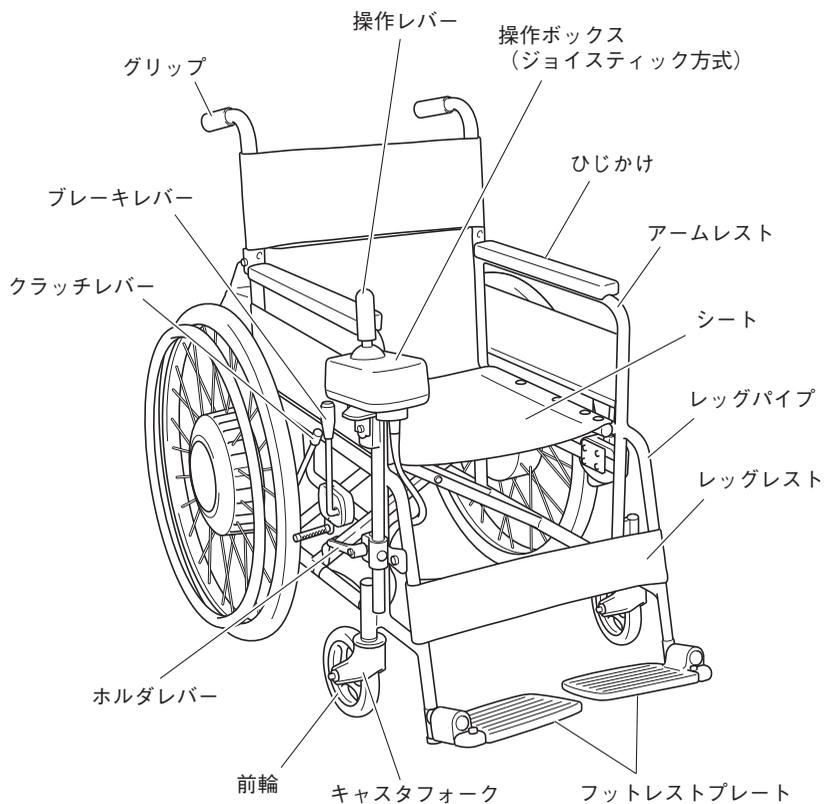
⚠ 注意

- 使用者最大体重（積載物を含む）は75kgです。ただしAC20U／22Uは装着する車いすによって異なります。この重量を超えて使用すると、当製品は壊れて機能しなくなります。この場合には保証の対象外です。
- 次の様な場所や状況下での走行は、避けるか介助者を同行して下さい。
 - ・急な坂道 ・下り坂の後進 ・下り坂での中高速走行
 - ・傾斜面の横断 ・重積載（乗員含む）走行 ・幅の広い溝
 - ・大きな段差 ・ぬかるみ、雪道、凍結路 等の悪路
 - ・急旋回、蛇行運転 ・雨天、濃霧、強風 等の悪天候時

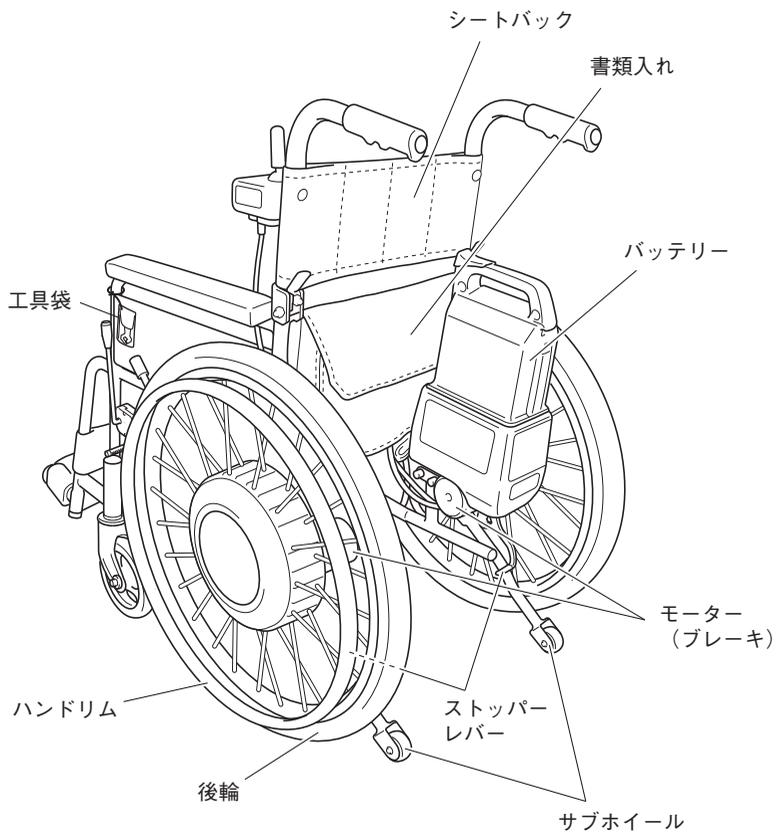
⚠ 注意

- 携帯電話や無線通信機器等は、安全な場所に車を止め、電源スイッチを「切／OFF」にしてご使用下さい。
- 走行中、電磁波の影響を受けると警告ブザーが鳴り停止することがあります。この場合は電源スイッチを一度「切」にして、再度「入」にすれば走行可能となります。

各部の名称



各部の名称



スイッチの使いかた

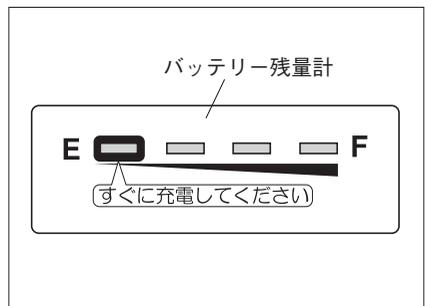
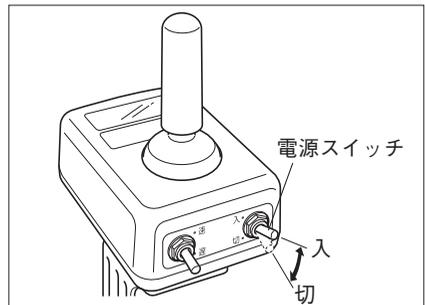
■電源スイッチ

電源の入-切（ON-OFF）を行います。

- 「入」：走行できます。
- 「切」：走行できません。

📌 アドバイス

- 電源スイッチを「入」にするとバッテリー残量計がすべて点灯したのち、車両の状態に応じた表示になります。
- 最初にすべてのランプが点灯しない場合は異常が考えられますので、スズキ販売店にご相談ください。



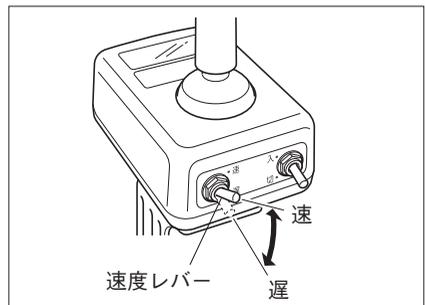
■速度レバー

最高速度を2段階に切り換えます。

最高速度	前進
速	4.5km/h
遅	2.5km/h

📌 アドバイス

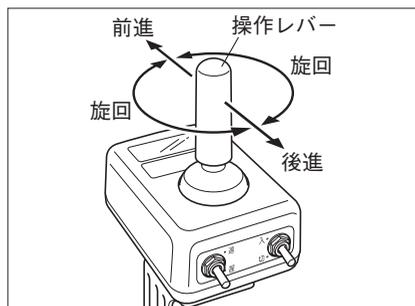
- 後進の際は速度レバーがどちらにあっても最高速度は2.0km/hになります。



スイッチの使いかた

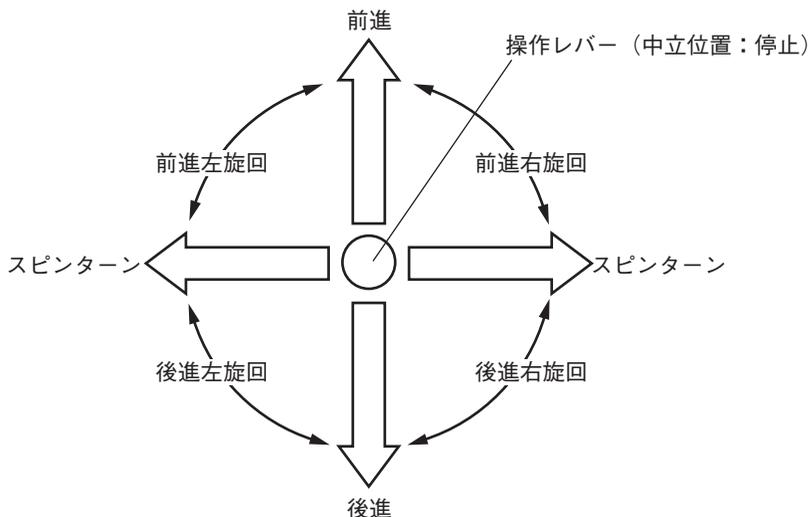
■操作レバー

- レバーを倒して進行方向を決めます。
- レバーの倒し加減で走行スピードを調整します。
- レバーを中立の位置に戻すと、自動的にブレーキがかかり停止します。



📌 アドバイス

- 操作レバーを倒して電源スイッチを「入」にしたり、電源スイッチを「入」にした瞬間に操作レバーを倒したりするとバッテリー残量計が全て点灯し、発進できない場合があります。操作レバーから一度手を放してから、操作レバーを倒してください。

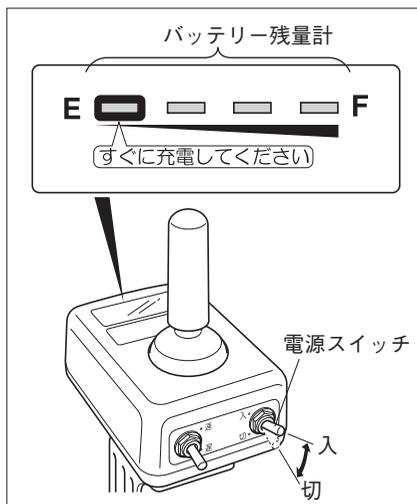


メーターの見かた

■バッテリー残量計

バッテリーの残り容量を表示します。

- 電源スイッチを「入」にすると4灯すべて点灯し、その後バッテリーの容量に応じた表示をします。



メーターの見かた

📌 アドバイス

- 冬期はバッテリーの働きが鈍くなるため、バッテリー容量の減少が早くなる傾向があります。
- 電源スイッチを「入」にした時、バッテリー残量計が全て点灯しますので確認してください。異常がある場合はスズキ販売店にご相談ください。
- 1灯のみ点灯 (E $\square\square\square\square$ F) 状態で走行を続けると、やがて点滅 (E $\square\square\square\square$ F) し、カインドチェアは停止します。緊急時やむを得ない場合は、一旦電源スイッチを「切」にし、再び「入」にすると、数メートル走行することができますが、バッテリーを著しく劣化させる場合がありますので、緊急時以外は避けてください。(□点灯、 \square 点滅、□消灯を示します)
- 同じような使い方をしているにもかかわらず、バッテリーの残量計の減り具合が早くなってきたり、走行できる距離が次第に短くなってきた時は「リフレッシュ充電」をしてください。
 - 31ページの「リフレッシュ充電の仕方」参照。
- リフレッシュ充電は月に一回をめやすに行ってください。
- 継ぎ足し充電 (バッテリー残量がある上からの充電) を繰り返すと1回の充電における走行距離が短くなる場合があります。

このような場合は「リフレッシュ充電」をしてください。
- 「リフレッシュ充電」を2~3回繰り返しても走行できる距離が回復しないときはバッテリーの寿命です。お買い求めのスズキ販売店でバッテリーを交換してください。(有料)

そのまま使用されていますと急激に走行距離が短くなる場合があります。

クラッチレバー

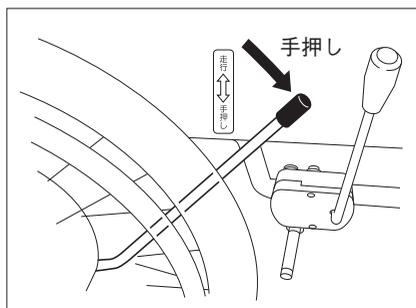
▲ 警告



- 衝突・転倒のおそれがあります。坂道ではクラッチレバーを「手押し」位置にしないでください。
- 介助者が同行する場合でも坂道では「手押し」位置にしないでください。

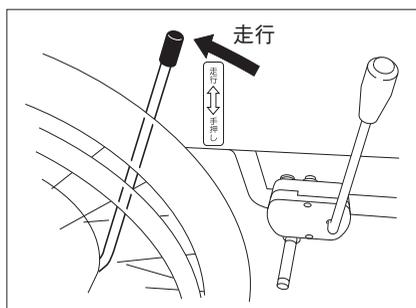
「走行」と「手押し」を切り換えます。

- 走行：モーター駆動による走行ができます。
- 手押し：手押しで動かすことができます。モーター駆動による走行はできません。



▲ 注意

- 左右両側が「走行」または「手押し」になっているか確認してください。



ブレーキレバー

▲ 警告



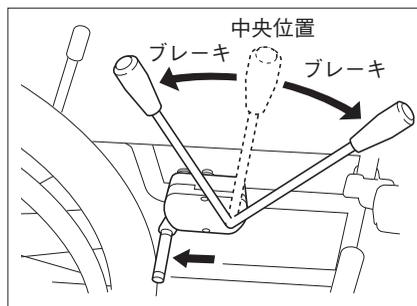
- 坂の途中では駐停車しないでください。
- ブレーキレバーに体重をかけたり、ブレーキレバーを持ち車両を持ち上げないでください。
- 駐停車する場合は、必ず両輪のブレーキをかけてください。

■ 駐停車時

ブレーキレバーを中央位置から前方または後方に押し付けることにより、ブレーキをかけます。

▲ 注意

- 左右両側のブレーキが正しく作動するか確認してください。

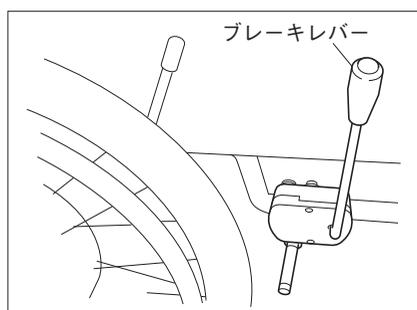


■ 走行時

ブレーキレバーを中央位置にし、ブレーキを解除します。

▲ 注意

- 左右両側のブレーキが解除されているか確認してください。



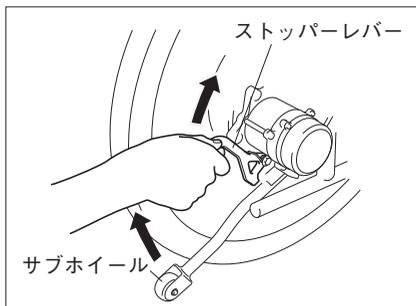
サブホイール

▲警告

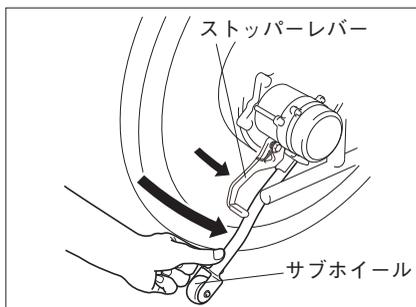
- サブホイールをはずしたり、持ち上げたままで走行すると転倒する場合があります。必ずサブホイールは降ろした位置で走行してください。

車両を送迎車に積み込む際や、一時的に段差を乗り越える際には以下の手順で持ち上げます。

- 1.解除するときは、ストッパーレバーを手前に引き、サブホイールが上方に持ち上がったことを確認します。



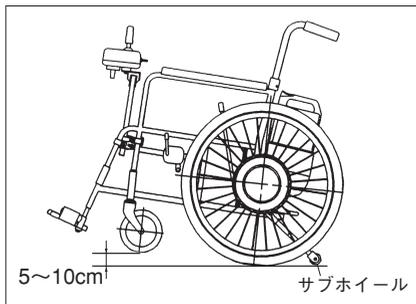
- 2.走行の際には、サブホイールを降ろし、ストッパーレバーがロックした事を確認します。



👉アドバイス

- ストッパーレバーは、サブホイールを押し下げる事により自動的に下がり、ロックします。

- 3.次にサブホイールが接地した状態で、前輪と地面の間が5～10cm開いているか確認します。

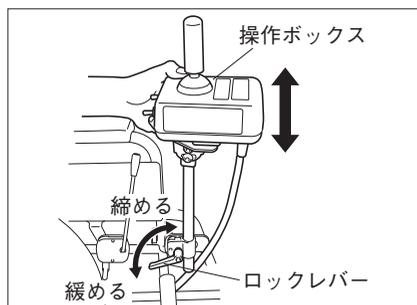


操作ボックス

■高さの調整

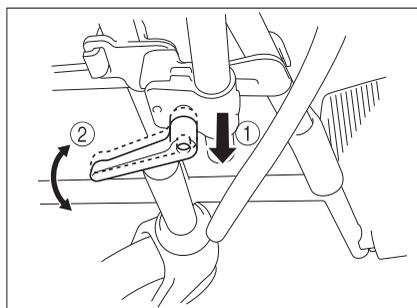
操作ボックスの高さが調整できます。

1. 操作ボックスを持ち、ロックレバーを緩め好みの高さにします。
2. ロックレバーを緩め付け、操作ボックスが確実に固定されたことを確認します。



〈ロックレバーのラチェット機構〉

1. ロックレバーを外側に引き出します。(図中①)
2. ロックレバーを操作しやすい位置に回転させます。(図中②)
3. ロックレバーを車体側に戻し、レバー操作を行います。



■前後位置の調整

操作ボックスの位置が前後に調整できます。

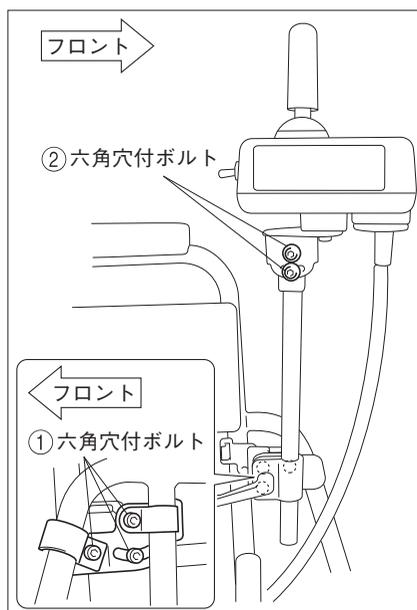
1. 下側の角度調整ボルト①で操作部の前後位置を調整します。
2. 上側の角度調整ボルト②で操作部の角度を調整します。

▲注意

- 乗り降りの際には操作ボックスに体重をかけないようにしてください。

📌アドバイス

- 操作ボックス取付位置の調整については、スズキ販売店にご相談ください。



フットレストプレート

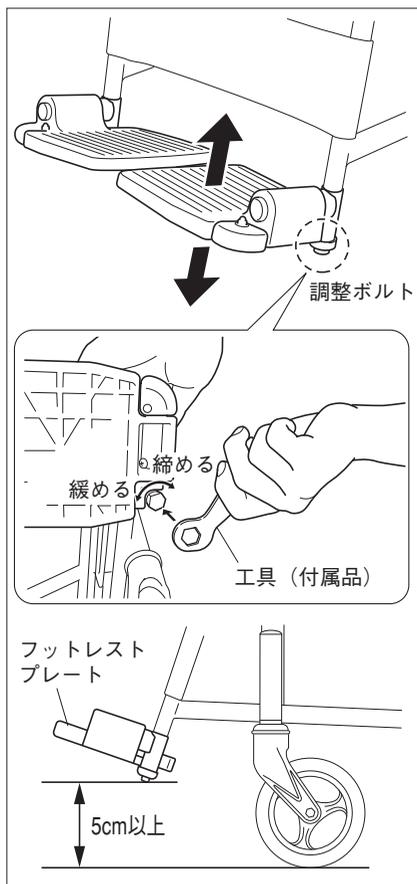
■高さの調整

フットレストプレートの高さが調整できます。

備え付けの工具でボルトをまわして上下に動かしてください。

📌 アドバイス

- フットレストプレートと路面の間隔は5cm以上確保してください。
- フットレストプレートの高さ調整については、スズキ販売店にご相談ください。



日常の手入れ

よく水気を絞った柔らかい布で、車体の汚れを拭き取ってください。汚れがひどい場合は中性洗剤を布にしみ込ませて拭き取り、その後に、水気を絞ったやわらかい布で拭いてください。

▲ 注意

- 本体を手入れする場合は、電源スイッチを「切」位置にした状態で行ってください。

📌 アドバイス

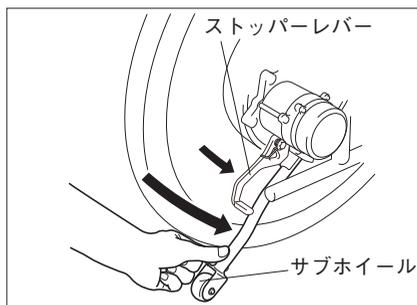
- 水洗いはしないでください。電気系統の故障の原因となります。
- ガソリン・シンナー・ベンジンなどは使用しないでください。変形・損傷などの原因となります。
- ワックスは使用しないでください。



走行の前に

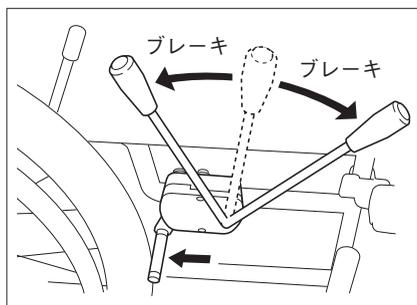
1. サブホイールが正しく装着されているか確認します。

●21ページの「サブホイール」参照。



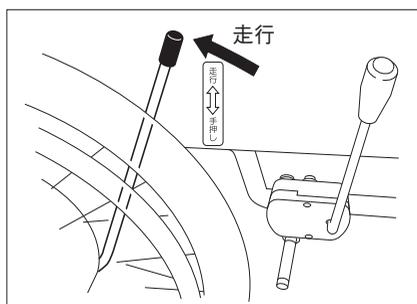
2. 左右両側のブレーキをかけます。

●20ページの「ブレーキレバー」参照



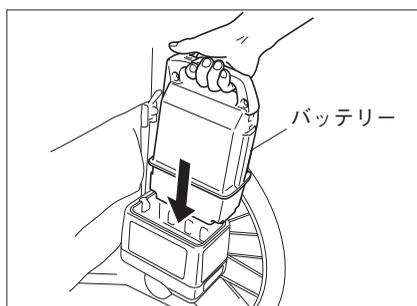
3. 左右両側のクラッチレバーが「走行」になっているか確認します。

●19ページの「クラッチレバー」参照



4. 操作ボックスの電源スイッチが「切」になっていることを確認して、バッテリーを装着します。

5. シートに深く腰かけます。

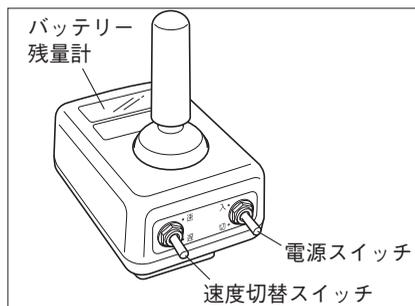


走行の前に

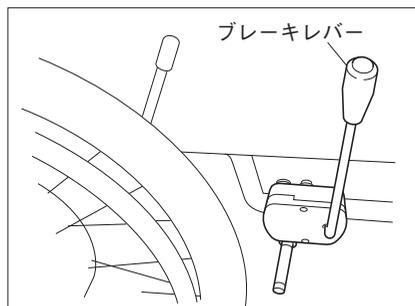
- 6.電源スイッチを「入」にします。
- 7.バッテリー残量計でバッテリー残量を確認します。不足している場合（残量計が2灯以下）は、充電してください。

☛29ページの「充電のしかた」参照

- 8.速度切替スイッチで最高速度の選択をします。



- 9.左右両側のブレーキを解除します。



▲注意

- カインドチェアへの乗り降りは、電源スイッチ「切」、クラッチレバー「走行」で左右両側のブレーキをかけ、平らな場所で行なってください。
- 違法無線機などの強い電磁波の影響を受けると停止することがあります。この場合は、電源スイッチを「切」にし、再度「入」にすると走行可能となります。

また、電源スイッチ「入」の状態でも、電磁波の影響を受けると走行できなくなることがあります。この場合も、電源スイッチを「切」にし、再度「入」にすると走行可能となります。それでも走行できない場合は、電磁波以外の原因と考えられますので、スズキ販売店にご相談ください。

発進、走行

1. 前後左右の安全を確認します。
2. 操作レバーを進行方向に、ゆっくり倒します。

▲ 注意

- 操作レバーは急激に操作しないでください。不意にバランスをくずし、転倒するおそれがあります。

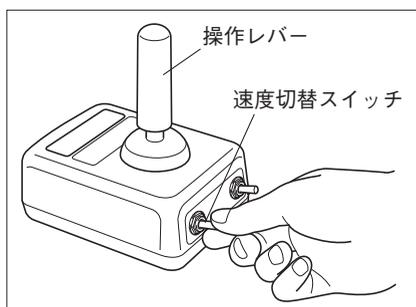
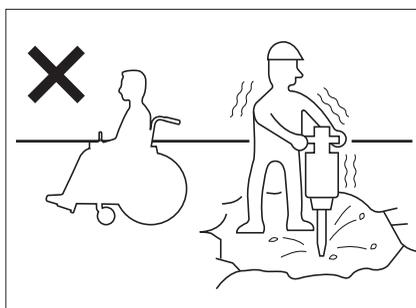
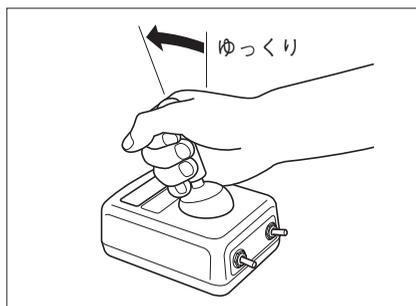
👉 アドバイス

- 近くに人がいる場合、交通量が多い場合は十分注意してください。
- バックする場合、後方の人や障害物に注意してください。
- 工事現場の近くは走行しないでください。やむをえず走行する場合は路面状況に充分注意してください。

3. 操作レバーの倒し加減で、スピードを調整します。最高速度の変更は速度切替スイッチで行います。

▲ 注意

- 走行中に電源スイッチを「切」にしないでください。急停車し転倒のおそれがあります。
- 下り坂では速度レバーを「遅」にして前進で走行してください。
- 屋内では低速で走行してください。
- 走行中は、速度切替スイッチを操作しないでください。

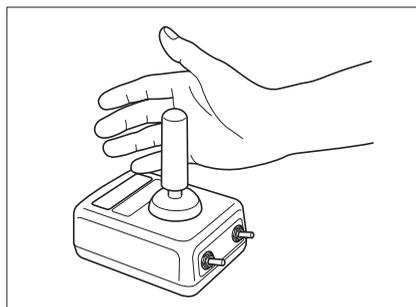


停止、駐車

1. 操作レバーを中立位置に戻します。
自動的にブレーキがかかり停止します。

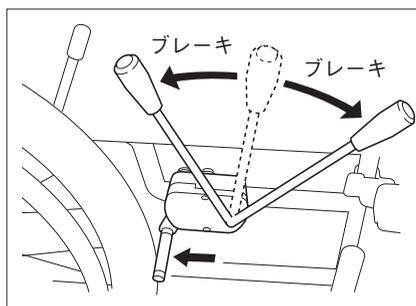
▲ 注意

- 制動距離は走行条件によって変わりますので、余裕をもって停止してください。
- クラッチレバーが「手押し」位置ではブレーキはかかりません。



2. 電源スイッチを「切」にします。

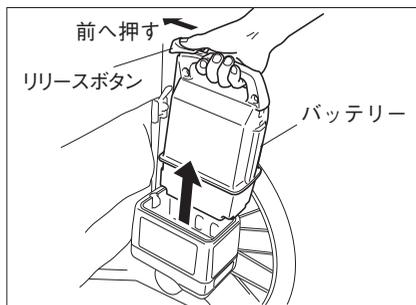
3. 左右両側のブレーキをかけます。



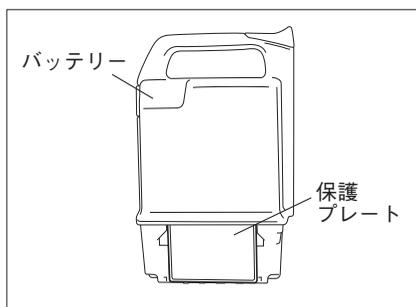
充電のしかた

■バッテリーを取外しての充電

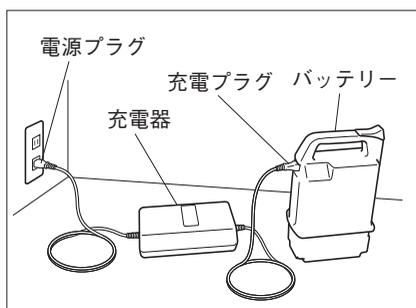
- 1.電源スイッチを「切」にします。
- 2.リリースボタンを押しながら、まっすぐ引き抜きます。



- 3.バッテリー端子保護プレートが正しく下りているか確認します。



- 4.充電器の電源プラグを家庭用のAC 100Vコンセントに差し込みます。
- 5.バッテリーに充電器の充電プラグをしっかりと差し込みます。



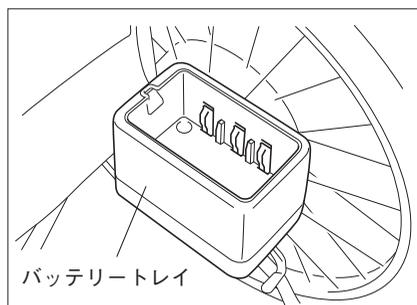
▲ 警告

- バッテリーを火の中や水の中に投下したり、加熱しないでください。破裂、発火する恐れがあります。
- バッテリーの (+・-) 端子を針金等でショートさせないでください。発熱、破裂、発火する恐れがあります。

充電のしかた

■バッテリーの取付け

- 充電後は取外しと逆の手順で行いますが、バッテリートレイに変形・損傷がないか確認し、トレイ内に異物があれば取り除きます。

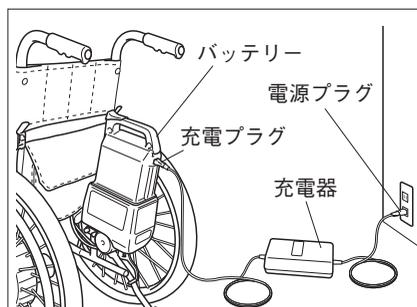


■バッテリーを装着したままの充電

1. 電源スイッチを「切」にします。
2. 充電器の電源プラグを家庭用のAC 100Vコンセントに差し込みます。
3. バッテリーに充電器の充電プラグをしっかりと差し込みます。

◆m アドバイス

- 充電中は車両が移動しないよう、必ず左右両側のブレーキをかけて充電してください。



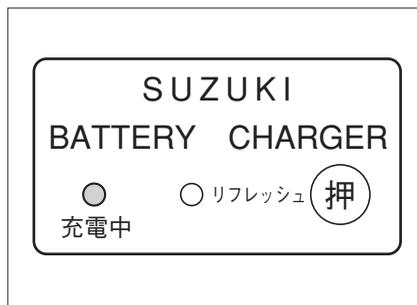
充電のしかた

充電のしかた

バッテリーを充電するには、「通常充電」と、バッテリーを回復させながら充電を行う「リフレッシュ充電」の二つの方法があります。走行距離の低下を防ぐために、月一回をめやすに「リフレッシュ充電」を行ってください。

■通常充電

1. バッテリーを接続すると、バッテリー温度が適温であれば、充電中ランプ（赤）が点灯し、充電が始まります。
2. 充電が完了すると、自動的に充電中ランプ（赤）は消えます。



📌 アドバイス

- バッテリーの周囲温度が、30℃以上の高温だったり0℃以下の低温だったりすると、適温になるまで充電器ランプ（赤）が点滅します。バッテリー温度が適温になると、充電中ランプ（赤）が点灯して、自動的に充電が始まります。待機時間は周囲温度などの条件により異なります。
- 走行終了直後に充電を開始しようとする、バッテリーの周囲温度が高く（30℃以上）なっている場合があります。この場合はバッテリーの温度が適温になるまで待機状態となり充電できません。
- バッテリーの充電時間は最大で約4.5時間となります。

▲ 注意

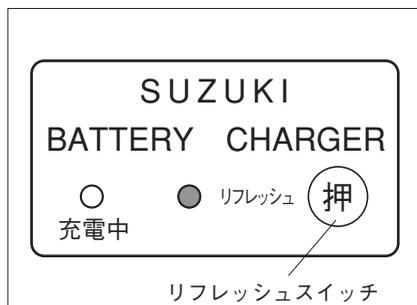
- 充電済みのバッテリーをさらに充電しないでください。過充電となりバッテリーの寿命を短くします。

充電のしかた

■リフレッシュ充電

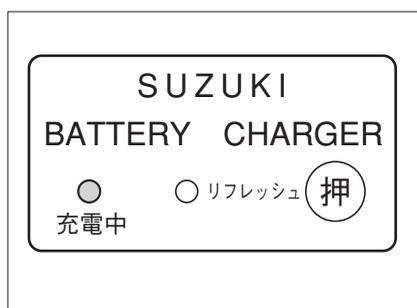
「リフレッシュ充電」は、完全放電と充電を自動的に行う充電方法です。ニッケル水素バッテリーは完全に放電してから充電すると、バッテリー性能を回復させて航続距離の低下を防ぐことができます。

1. バッテリーを接続した後、リフレッシュスイッチを押します。リフレッシュランプ（緑）が点灯して、バッテリーの放電が始まります。放電時間はバッテリーの残量により異なります。



2. 放電が完了すると、自動的に充電が始まり充電ランプ（赤）が点灯します。

3. 充電が完了すると、自動的に充電ランプ（赤）は消灯します。



アドバイス

- バッテリーの周囲温度が、30℃以上の高温だったり0℃以下の低温だったりすると、適温になるまで充電中ランプ（赤）が点滅します。バッテリー温度が適温になると、充電中ランプ（赤）が点灯して、自動的に充電が始まります。待機時間は周囲温度などの条件により異なります。
- 「リフレッシュ充電」は最長で約18時間かかります。（満充電の場合）できるだけ放電した状態で「リフレッシュ充電」を行うようにしてください。
- 「リフレッシュ充電」を2～3回続けてもバッテリーの性能が回復しなかった場合はバッテリーの寿命です。お買い求めのスズキ販売店でバッテリーを交換してください。（有料）

充電のしかた

▲ 警告

- 感電のおそれがあります。濡れたプラグや濡れた手で充電しないでください。
 ・濡れたプラグや濡れた手は、乾かしてから充電してください。
- バッテリーおよび充電器は非分解です。分解や改造はしないでください。

▲ 注意

異常充電による事故を防ぐため、次のことをお守りください。

- カインドチェア専用の充電器以外で、充電はしないでください。
- 充電器の分解・改造はしないでください。
- バッテリーに強い衝撃を与えたり、分解、改造をしないでください。
- バッテリーを本電動車椅子以外には、使用しないでください。
- 室内で直射日光を避け、風通しのよい場所で充電してください。
- 幼児やペットが出入りする所は避けてください。
- 雨・露を受けない、湿気の少ない場所で充電してください。
- 雨よけシートなどをかけたまま充電しないでください。
- バッテリーの周囲の温度が0℃以下、または30℃以上で充電しないでください。この温度範囲以外では充電不足になったり、バッテリーを傷める恐れがあります。

📌 アドバイス

- ラジオやテレビなどから2m以上離れたところで充電してください。雑音の原因となることがあります。

日常点検

走行する前には、次の点検を必ず行ってください。異常がみられる場合には、スズキ販売店で点検を受けてから使用してください。

点検箇所	点検項目
前・後輪タイヤ	空気圧は適正ですか？（後輪）
	溝の深さは十分ですか？（後輪）
	亀裂・損傷はありませんか？
キャスト	ゆるみ・ガタはありませんか？
	正常に作動しますか？
操作レバー	正常に作動しますか？
電源スイッチ	正常に作動しますか？
速度レバー	正常に作動しますか？
バッテリー	バッテリーは充電してありますか？
クラッチレバー	スムーズに切り替わりますか？
ブレーキレバー	正常に作動しますか？
車体各部	ゆるみ・ガタはありませんか？
モーター	異音はありませんか？
	ブレーキは正常に作動しますか？
サブホイール	正常に作動しますか？

※走り始めは十分注意して走行し、異常がないことを確認してください。

定期点検記録簿

安全にご使用いただくため、購入後1ヵ月、以降は6ヵ月毎にスズキ販売店で点検（有料）を受けてください。

◆アドバイス

- カインドチェアを使用しない場合も定期点検はを受けてください。
- 長期間使用しなかった場合は、使用する前に定期点検を受けてください。

✓：異常なし A：調整 △：修理 ×：交換 T：締付け C：清掃 L：給油

点 検 項 目		1か月	6か月	1年	1年半	2年	2年半
操作ボックス	操作レバーの作動・戻り具合						
	スイッチ類の作動具合						
	コネクタ-接続部のゆるみ・損傷						
メインコントロール	コネクタ-接続部のゆるみ・損傷						
モーター	回転・異音						
	電磁ブレーキの効き具合						
	コネクタ-接続部のゆるみ・損傷						
クラッチ	クラッチレバーの作動具合						
ミッション	グリスの漏れ						
バッテリー	端子のガタ・損傷						
	端子保護プレートの作動・損傷						
バッテリー トレイ	端子のガタ・損傷						
	トレイの変形・損傷						
充電器	充電機能						
	プラグ・コードのガタ・損傷						
	ランプの点灯						

点検・整備

定期点検記録簿

✓：異常なし A：調整 △：修理 ×：交換 T：締付け C：清掃 L：給油

点 検 項 目		1か月	6か月	1年	1年半	2年	2年半
フレーム	シートの汚れ・損傷						
	締付ねじのゆるみ						
キャスター	キャスターの損傷						
	キャスターの回転の具合						
	キャスター軸受部のガタ						
タイヤ	タイヤの空気圧（後輪）						
	タイヤの亀裂・損傷						
	タイヤの溝深さ・異常摩耗						
ホイール	ボルト・ナット類のゆるみ						
	ハンドリム・ホイールの損傷						
	スポークのゆるみ						

点検実施者氏名欄

	点検の年月日	点検者の氏名
1か月	年 月 日	
6か月	年 月 日	
1年	年 月 日	
1年半	年 月 日	
2年	年 月 日	
2年半	年 月 日	

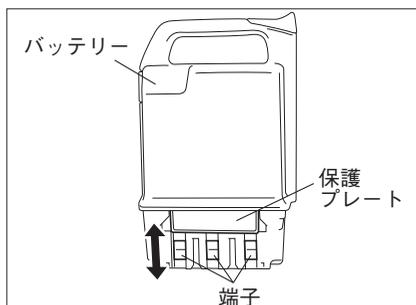
バッテリー

■バッテリー

- バッテリーを取り外した際、バッテリー端子保護プレートが正しく下りるか確認します。
- バッテリーの端子にガタツキがないか確認します。

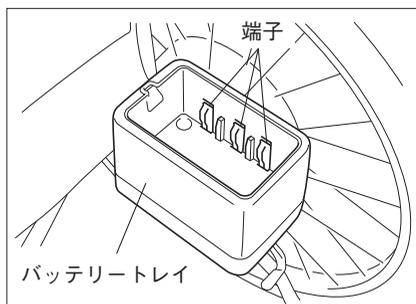
▲ 警告

- バッテリーの端子を点検の際は、必ず1カ所ずつ点検してください。ショートする恐れがあります。
- バッテリーは非分解です。



■バッテリートレイ

- バッテリー端子にガタや損傷がないか確認します。
- バッテリートレイに変形・損傷がないか確認し、トレイ内に異物があれば取り除きます。



▲ 注意

- バッテリーに貼付されているラベルをよく読んで、その指示に従ってください。
➡ 12ページの「ラベル」参照
- バッテリーの点検・整備は、電源スイッチ「切」で平らな場所で行ってください。

👉 アドバイス

- バッテリーの性能は外部温度に影響されます。夏場に比べて冬場の方が走行距離が、短くなります。
- 月に一度は「リフレッシュ充電」をしてください。
➡ 32ページの「リフレッシュ充電」参照
- 交換する場合は、スズキ指定のバッテリーに交換してください。
- バッテリーは長期間使用しないと自己放電し、残量が低下します。
- 長期間の保管などにより過放電となったバッテリーは、充電時間が長くなります。また、バッテリー寿命が著しく劣化します。

タイヤ

タイヤの状態は、走行性能やバッテリーの消費量に大きな影響を与えます。

■空気圧（後輪）

エアゲージで規定の範囲にあるか点検します。不足している場合は空気入れて空気を入れてください。

規定値	300kPa {3.1kgf/cm ² }
-----	----------------------------------

▲注意

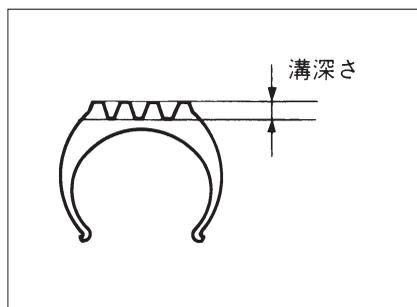
- エアゲージで空気圧を測定の際に、空気が抜け空気圧が下がることがあります。

■溝の深さ（後輪）

溝の深さをデプスゲージなどで点検します。

規定値以下の場合は、交換してください。

規定値	0.8mm
-----	-------



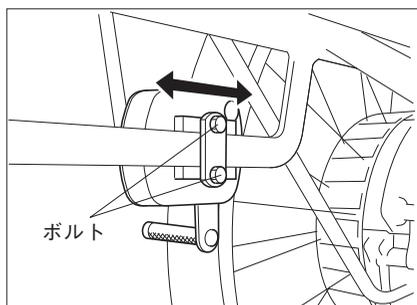
ブレーキ

■ブレーキの調整

ボルトをゆるめ、前後に動かすことにより、ブレーキの調整ができます。

▲注意

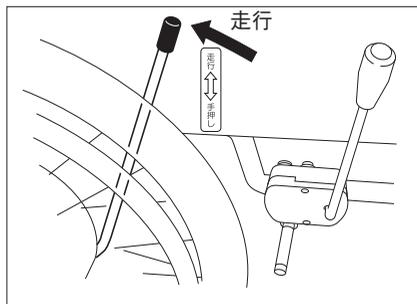
- 左右ブレーキの調整については、スズキ販売店に依頼してください。



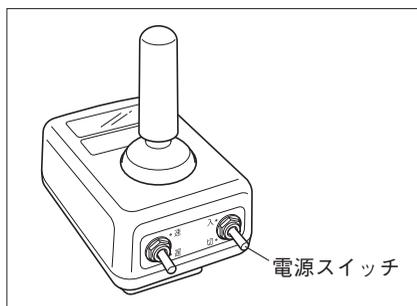
保管

カインドチェアは次の状態にして保管してください。

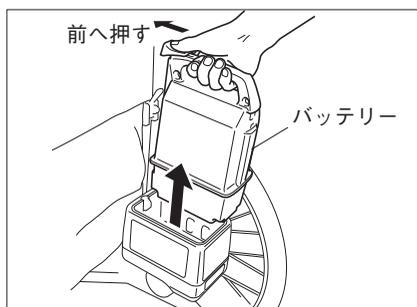
- クラッチレバーを「走行」位置にしてください。



- 電源スイッチは「切」位置にしてください。



- バッテリーは必ずはずしてください。



- 雨・露・直射日光などを受けない場所に保管してください。
- 車の中など高温になる所での保管は避けてください。

サービスデータ

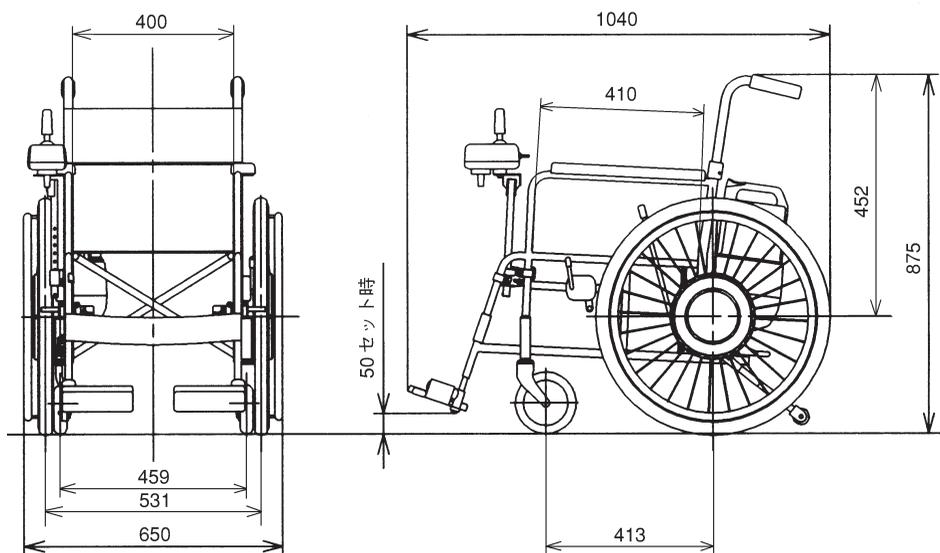
諸元表

製造業者の型式		AC22
寸法 (全長×全幅×全高)		1040×650×875mm
重 量	バッテリー含む	27.5kg
	バッテリー除く	23.5kg
駆 動 モ ー タ (30分定格出力)		DC24V・90W×2個
バ ッ テ リ ー		20HR-D-SUZ (24V7.0Ah : 5時間率) × 1個
充 電 器		DC28V・1.65A マイコン制御自動充電方式
前 輪		6"
後 輪		22"×1 3/8 W0
駆 動 方 式		後2輪直接駆動方式
制 動 方 式		電磁ブレーキおよび発電制動・逆転制動
速度・操舵制御方式		ジョイスティックコントローラによる全方向無段階電子制御方式
バックシート角度		6°
最高速度	前 進	高速 4.5km/h 低速2.5km/h
実用登坂角度		6°
連続走行距離*		10km
最小回転半径		767mm
段差乗越高さ		20mm
溝乗越幅		50mm
使用者最大体重 (積載物も含む)		75kg

※連続走行距離は、常温(20℃)、使用者最大体重(75kg)、満充電の新品バッテリーで平坦路を4.5km/hで連続走行し、バッテリー放電(100%)までの距離を示します。

外観図

単位：mm



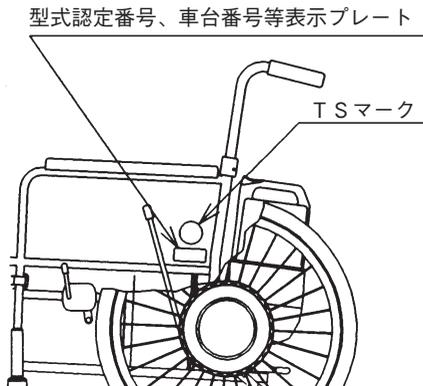
サービスデータ

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、車台番号を記録しておいてください。

機 種	AC22
車台番号	

車台番号表示位置



こんなときは

カインドチェア取扱中に次のような症状がありましたら、以下の点をご確認ください。それでもなおらない場合はスズキ販売店にご相談ください。

症 状	チェックポイントと対応策
発進しない	電源スイッチが「切」になっていませんか？ ↓ 電源スイッチを「入」にしてください。
	クラッチレバーが「手押し」になっていませんか？ ↓ クラッチレバーを「走行」にしてください。
	バッテリー容量はありますか？ (バッテリー残量計が点灯していますか？) ↓ バッテリーの充電を行ってください。
	充電中ではありませんか？ ↓ 充電終了を確認し、充電プラグを外してください。
	ブレーキがかかっていませんか？ ↓ ブレーキを解除してください。
	電源スイッチを「入」にする前に、操作レバーを倒していませんか？ (バッテリー残量計が全て点灯している) ↓ 操作レバーから手を放してください。

症 状	チェックポイントと対応策
<p>電源スイッチは「入」になっているのにバッテリー残量計が消灯して発進できない。</p>	<p>充電中ではないですか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>充電中や充電直後は発進できません。充電をやめ、電源スイッチを「切」にし、しばらくしてから再度「入」にしてください。</p>
	<p>走行せずに電源スイッチを「入」のまま放置すると、電力節約のため約5分でバッテリー残量計のランプが消え、走行操作ができなくなります。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>電源スイッチを「切」にし、再度「入」にしてください。</p>
<p>走行はできるがブザー（継続音）が鳴っている。</p>	<p>最大登坂角度（約10°）に近づいています。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>登坂を中止し、引き返してください。</p>
<p>走行はできるがバッテリー残量計が点滅し、ブザー（継続音）が鳴っている。</p>	<p>バッテリーとの通信が途切れています。バッテリーがなくなるまで走行できますが残量表示ができません。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>スズキ販売店にご相談ください。</p>

こんなときは

症 状	チェックポイントと対応策
<p>走行中、バッテリー残量計が点滅し、ブザー（継続音）が鳴り、停止した。</p>	<p>モーターへの負荷が大きいことを示しています。車輪が溝にはまっていたり、大きな段差を乗り越えようとしませんでしたか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>車両を入手を借り、障害物のないところまで出した後に、電源スイッチを「切」にし、再度「入」にしてください。</p>
	<p>急な上り坂道を長時間走行していませんか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>電源スイッチを「切」にし、5分以上車両のご使用を控えてください。</p>
	<p>ノイズなどの影響か構成部品のいずれかの故障です。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>電源スイッチを「切」にし、再度「入」にしてください。それでも点滅表示をする場合はスズキ販売店にご相談ください。</p>

症 状	チェックポイントと対応策
走行距離が短い	坂道走行、発進停止の繰り返しなどの高負荷運転を行っていませんか？ ↓
	走行条件によっては、走行距離が短くなります。異常ではありませんので、そのままご使用ください。
	長期間放置していませんか？ ↓
	バッテリーは長期間放置すると自己放電して容量が減ります。充電してください。
	正しい充電をしていますか？ ↓
	正しい充電を行っても同じ症状のときはバッテリーの寿命が考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
バッテリーは確実に固定されていますか？ ↓	
バッテリーの取付状態を確認してください。正しく取り付けられていても同じ症状のときは、バッテリーの接触不良が考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。	
「リフレッシュ充電」を行っていますか？ ↓	
月1回を目安に「リフレッシュ充電」を行ってください。	

こんなときは

症 状	チェックポイントと対応策
充電できない	<p>プラグはしっかりと差し込まれていますか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>本書（29ページ）に書いてある手順でやり直してください。それでも点灯しない場合はバッテリーの故障、または充電器の故障が考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>温度の高い所で充電していませんか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>バッテリーの周囲温度が30℃以上では充電しません。涼しい場所で充電してください。</p>
	<p>温度の低い所で充電していませんか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>バッテリーの周囲温度が0℃以下では充電しません。暖かい場所で充電してください。</p>
	<p>走行直後ではありませんか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>走行直後はバッテリーの温度が高く、充電しないことがあります。温度が下がってくると充電を始めます。</p>
	<p>長期保管後ではありませんか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>そのままお待ちください。</p>

こんなときは

症 状	チェックポイントと対応策
充電時間が長すぎる (約4.5時間以上)	リフレッシュ充電ではありませんか？ ↓ リフレッシュ充電は最長18時間かかります。
	長期間保管していませんか？ ↓ 長期保管後は、充電時間が長くなる場合があります。
充電時間が短すぎる	充電プラグがゆるんでいませんか？ ↓ 充電プラグが外れていると、充電器のランプは消えて停止します。充電を始めからやり直してください。
	満充電のバッテリーを再度充電していませんか？ ↓ 充電時間はバッテリー残量によって異なります。
	非常に高温となる場所で充電していませんか？ ↓ 炎天下や暖房機具の近くなど、温度が非常に高くなる環境では、充電が途中で停止することがあります。充電は涼しい場所で行ってください。
充電器から異音、異臭や煙がでる	電源プラグを抜き、使用を中止し、スズキ販売店で点検を受けてください。

こんなときは

症 状	チェックポイントと対応策
充電器やバッテリーが熱くなる	手で触れられないほど熱いですか？ ↓ 高温の場合は異常です。電源プラグを抜き、使用を止めてください。スズキ販売店で点検を受けてください。 (通常でも多少の熱を持ちます。)
バッテリーが取り付けられない	バッテリー取付部などに、ゴミなどの異物はありませんか？ ↓ 異物などを取り除いてから、バッテリーを取り付けてください。
	バッテリーが逆の方向に差し込まれていませんか？ ↓ 正しい方向に差し込んでください。

あ

運転のしかた	25
運転の前に	2
運転時の注意	4

か

外観図	42
改造	10
各部の名称	13
クラッチレバー	19

さ

坂道の走行	5
サービスデータ	41
車台番号	43
充電のしかた	29
諸元表	41
スイッチの使いかた	15
積載重量	3
操作ボックス	22
操作レバー	16
速度レバー	15

た

タイヤ	38
定期点検記録簿	35
電源スイッチ	15
取扱いの方法	13

な

日常点検	34
日常の手入れ	24

は

バッテリー	37
バッテリー残量計	17
フットレストプレート	23
保管	40

ま

メーターの見かた	17
----------	----

ら

ラベル	11
-----	----

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはスズキ代理店にお申しつけください。

■お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認くださいのうえ、ご相談ください。

- ①車名および車台番号
- ②ご購入年月日
- ③ご購入店名
- ④ご相談事項
- ⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号

代理店印

販売店印

スズキ株式会社の窓口は…

〒432-8611 浜松市高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室

フリーダイヤル ☎ 0120-402253

ダイヤルイン ☎ 053-440-2253

受付時間／月曜～金曜（除く祝日）

9:00～12:00 13:00～17:00